令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　23　南が丘中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・読む・書く・話す力の基礎力が定着し、平均値を示している。 ・漢字力、語彙力、表現力は個人差が大きく、語彙力向上に向けた読書活動の継続は欠かせない。 ・全体の読解力と文章表現力の向上が課題である。	文章の読み取りの着眼点の確認と、論理的文章から得た考えと根拠の文章化を習慣づける。スピーチやビブリオバトル、漢字テストの継続、短歌や俳句づくりなど、計画的に話す作業と書く作業を取り入れ、国語に興味をもって楽しむ姿勢を養う。ｅライブラリによる自主学習も定着させる。
社会	・自分の考えを発表したり、質問に答えたりすることに苦手意識をもつ生徒がみる。 ・基礎的・基本的な内容の定着に個人差がみられる。 ・学習内容を身近な問題として捉えることができず、興味や関心の薄い生徒がみられる。 ・一問一答形式の思考はできるが、知識を関連付けて回答するなどの応用的な思考は苦手である。	・自分の意見を発表しやすくするために、小グループでの意見交換の場を設けるなど、発表の仕方を工夫する。 ・定期的にワークの取組を点検し、家庭学習の習慣化につなげる。 ・興味や関心をもって学習に取り組むことができるよう、ニュースや映像など様々な素材を教材として活用していく。 ・資料から読み取ったことをまとめる時間を設け、思考力や表現する力を伸ばす。
数学	苦手意識をもつ生徒がいるが、授業中は意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 問題文を図や表、グラフなどに表して考えることを行っている生徒が全体の半数程度である。これは文章題などの応用問題において大切な思考過程である。また、全国学力調査では、全国の平均よりは高いが都の平均より低い。さらに基本的な計算を苦手としている生徒が多くおり、全国の平均より下回っていることが確認された。	習熟度別少人数授業を活用し、教員と生徒の個々のやり取りや生徒間の教え合いの時間を充実させる。文章題の取り組み方として、立式に至るまでの経緯に目を向け、それを説明しあうなどの学習活動を取り入れる。また、反復練習の進め方を具体的に指示し、効率的に学習する姿勢を身に付けさせる。具体的には、一通り解く、間違えた問題だけを再度解く、の流れを繰り返す。ｅライブラリによる課題も取り入れ、反復練習するための環境を活用する姿勢を育成する。
理科	生徒は観察・実験活動に意欲的に取り組み、主体的に学習しようとする姿勢が見られる。対話的な学びも定着しつつあり、多くの生徒が他者との協働的活動も進んでいる。科学的に根拠を示して説明する力や、得られた結果を論理的に読み取り、整理して表現する力が十分でない点が課題となっている。	基礎的な知識・技能の定着を図るために、小テストや振り返り活動を繰り返し行う。その上で、実験や観察の結果を科学的に考察し、論理的にまとめる練習を段階的に取り入れる。具体的には、実験を行う際に「予想→実験・観察→結果→考察」の流れを意識させ、結果を説明する際に必ず根拠を明示させる。また、グループでの意見交換や比較を通して多様な考え方を取り入れ、最終的にはタブレットを活用して自分の考えを整理・表現させ、発表や相互評価につなげる。これにより、科学的な表現力と論理的な文章構成力の向上を図る。
音楽	特に１年生が複数の小学校から生徒が集まるため読譜能力に差異がある。 歌唱では、特に男子の「変声期」が全学年に渡ってみられるので、無理をさせない発声方法を身につけることが必要である。 和楽器については学習経験が少ないため、計画的に学習を進める必要がある。	音符休符や音楽記号、リズム学習などを通して、基本的な記号を教え、読譜能力を伸ばしていく。 変声期に配慮し、無理のない発声方法を身につけられるよう、パート練習などの際に指導する。 和楽器は、「箏」に取り組む。

美術	作品制作に使える時間と作業進度の兼ね合いを考え、見通しを十分もたないまま制作に取り組む生徒が見られる。 既存の画像や作品を参考にする際に、自らの発想へ発展させることに課題が見られる。	授業で進度の目標を示すこと、毎時に残りの時間を確認することで生徒が意識的に進度の調整を行えるようにする。教員の方でも各生徒の進度を確認し、進度が遅い場合は具体的にどこをどうすれば良いか伝える。 タブレットを利用した資料活用について具体的に指導し、生徒の創造性が高められるようにする。(あくまで参考資料であることを伝える。)
保健体育	運動に意欲的に取り組む生徒と、運動への苦手意識をもつ生徒の差がみられる。特に強度の高い運動を継続することができず、体力向上と粘り強く運動に取り組む姿勢に課題がある。また男女共習により、運動能力の差も大きくなっている。体力や技能の向上に向けて自身と向き合うことや互いに高め合うことが課題。	体力向上のために行っているサーキットトレーニングを正しい姿勢で行うよう呼びかけると共に運動量の確保を心がける。頑張る生徒を応援する姿勢はあるので、その中で頑張る雰囲気を広げていく。男女共習の授業を行い、性差を理解し互いに協力するとともに、体力や技能を高めるために教え合うことのできる授業を展開する。個人やチームの課題に対して、生徒が自ら課題解決に向けて取り組むことができる授業を展開する。また個の能力に応じて教員から指示や助言、サポートを行う。
技術・家庭	＜技＞授業で知識や技能の習得に積極的に取り組んでいる。学んだ技術を実生活と関連付けながら、学習した技術を活用する力に課題がみられる。 ＜家＞授業で学んだ知識を、具体的に実生活に取り入れようとしている姿勢がみられる。自分の将来設計に関連付けて、さらにより深く知識を広げることが必要とされる。	＜技＞設計やシミュレーションの時間を増やし、一人ひとりに応じた支援を強化する。生徒自身が試行錯誤を重ねることで作品への愛着を深め、見通しを持って意欲的に作業へ取り組めるようにする。 ＜家＞授業で得た知識をより掘り下げて実生活に取り入れていけるように、具体的な課題を設定して、グループでの話し合いを通して、各個人の課題を見つけ、解決できるようにする。
外国語（英語）	積極的に課題や活動に取り組む一方で、基礎クラスでは、語彙や文法の知識が定着していない生徒が多い。積み重ねの教科なので、努力が結果に表れにくく、語彙や文法の定着状況に個人差がみられる。	基礎・基本的事項を定着させるため、授業内で反復練習を今まで以上に多く取り入れるとともに、比較的、努力が結果に表れやすい単元テストや単語テストなどを定期的に行い、達成感や「やればできる」という気持ちを味わわせる。スモールステップで、丁寧な段階を踏みながら、力を付けさせる。